

世界中のラルシュコミュニティのすべてのメンバーへ

2020年2月22日

友人の皆さん

昨年6月、私たちはある調査の開始を決定したことをお知らせしました。その調査は、「委託された外部機関による、徹底的かつ独立した調査によって私たちの歴史をよりよく知り、虐待防止に対する私たちの取り組みをさらに推し進め、そしてそれによって現在の方針と実施内容を改善する」ための調査です。この調査には、「(ラルシュ内で障がいを持たない女性に対する性的虐待を行っていた当時の)トマ神父を取り巻く環境と、この環境におけるジャン・バニエの役割」に関する疑問に答えることも含まれていました。

この作業を開始することと、その結果を皆さんと共有することはラルシュ・インターナショナルの国際リーダーシップ・チームと国際理事会によって承認されていました。この作業は、トマ神父に関する証言が私たちに届けられた2014年に私たちの前任者、パトリック・フォンテーヌとアイリーン・グラスが着手して以来続けられていました。

たいへんに残念なことです。この調査及び私たち自身の調査の結果をお知らせしなければなりません。この調査の時期は、特にジャンの死の直後に行われたということは、単なる偶然です。

調査の結果は、ジャン・バニエ自身にも関係しており、ラルシュの創設に関する私たちの認識にも疑念を呈するため、本日皆さんにお伝えする調査の結論は厳しく、多くの人を動揺させるでしょう。証言をしてくださった女性たちの勇気を心にとどめ、そしてラルシュの価値観に従って、この結論を皆さんと共有します。

- ジャン・バニエが私たちに語ったこととは異なり、1950年代には彼はすでに1956年の教会法に基づく裁判でトマ神父がカトリック教会によって有罪判決を受けた多くの重要な理由を知っていました。裁判によって、トマ神父の理論は「偽の神秘主義」であり、またその理論から性的な行為の実践が導かれるとされました。

トマ・フィリップ神父は、ジャン自身が霊的な父(訳注:宗教上の父)と呼ぶ人物で、ジャンによると、ラルシュを創立するようにジャンに勧めた人物です。2015年、彼の死から22年

の後、連盟(訳注:ラルシュ・インターナショナルのこと)はトマ神父が成年の女性(障がいを持っていない女性)に対して虐待を行っていたことを知りました。彼がラルシュにいて、トロリー(フランス)の司祭の職に就いていた時のことです。様々な機会においてジャンはこの虐待について知らなかったと明言し、1950年代にトマ神父と親しい関係にあったという現実を決して明らかにしませんでした。

- さらには、当時まだ若い男性だったジャン・バニエは、トマ・フィリップ神父と親密な関係にあって信頼を寄せていただけではなく、トマ神父の始めた女性たち—彼女らは同意に基づくと私たちが入手した様々な一貫性のある証拠は示しています—との性的な実践を何度か共有していました。

- 1956年にトマ神父は教会により有罪判決を受け、ジャン・バニエも参加する小さなグループとのこれ以上の接触を禁止されました。にもかかわらず、トマ・フィリップ神父、ジャン、そして数人の女性は1964年のラルシュ創立まで関係を続けていました。このグループのうちの何人かは、トロリーのコミュニティーのごく初期に参加しており、彼らの本来の関係を決して明かすことなく、何年にもわたりラルシュに居続けました。

- 加えて、調査は、上記のグループとは関係のない別の6人の障がいのない成人の女性から、1970年から2005年の時期に関する信頼に足る一貫性のある証言を得ました。女性らはそれぞれ、ジャン・バニエが彼女らに対して性行為を行ったことを報告しています。行為は通常、霊的同伴(訳注:宗教的な成長を助けるために指導を仰ぐこと。通常、指導者と定期的に会って一対一で話し合いが行われる)という状況の中で行われました。何人かの女性はこの経験により深く傷ついています。ジャン・バニエは、それぞれの女性に対してこれらの出来事を秘密にしておくように求めていました。彼女らは、お互いの経験については事前に知りませんでした。一様に性行為を正当化するのに用いられた、極めて異常な霊的あるいは神秘的な説明に関する事実を報告しています。

これらの行動は、ジャン・バニエが彼女らに対して深い心理的・霊的支配力を持っていたことを示唆しており、また、彼自身がトマ・フィリップ神父の常軌を逸した理論と実践の一部を応用し、非常に長い期間それらを続けていたことを示しています。

私たちはこれらの発見にショックを受け、これらの行為を無条件に強く非難します。これらはジャンが表明している価値観と完全に矛盾し、人に対する尊敬と誠実さという基本ルールに反し、そして、ラルシュがよって立つ基本原則に反します。

私たちの多くにとって、ジャンは最も愛し、尊敬する人々の中の一人でした。ジャンは、ラルシュの中でも外でも、世界中の多くの人に啓示や癒しを与えてきました。私たちは、とりわけ「信仰と光」のメンバーのことを思い、この知らせが引き起こす混乱と痛みについて思います。彼が生きている間に行った少なからぬ良いことに疑いはないとしても、私たちが抱いていたジャンのイメージとラルシュの起源に対する認識は葬り去らねばなりません。ジャン・バニエがこのような関係についてどのように理解あるいは信じていたとしても、あるいは、証言を提供してくれた女性たちと異なった認識を持っていたとしても、何人かの女性はこの出来事に深く傷つき、長期にわたる負の影響を経験していることを調査は立証しています。

ジャンは自分の本性の一部を隠し、そして彼の沈黙は、いかなる理由があるにせよ、受け入れがたい行為を続けることを許してしまい、私たちの創立の歴史に関してゆがんだ見方をもたらしました。ジャン・バニエが障がいを持つ人に対して同様の行為を行ったという証拠はない、ということは強調しておきたいと思います。

外部の助けも借りながら、私たちのこの部分の歴史とこのような行為の根本原因を理解するにはさらに多くの時間と労力がかかるでしょう。さらなる情報もたらされ、これらの出来事に対する理解が深まる可能性もあります。私たちは調査を継続し、経過と発見事項を皆さんにお知らせし続けます。

この調査の当初に計画した通り、私たちは現在の虐待防止と障がいのある人とない人を守る取り組みについて徹底的な評価を行います。これには、過去と現在において連盟が扱った報告書の調査も含まれます。さらに、現在それぞれのコミュニティや国に存在する通報手続きに加えて、ラルシュ・インターナショナルは、すべてのメンバーが安全で秘密が守られる環境でアクセスできる一元化された通報の手続きを立ち上げました。外部からの人を含むメンバーからなるタスクフォースがこれらの情報を収集し、何をすべきかを見極める任に当たっています。

私たちは引き続き、メンバーを保護する指針と手続きがコミュニティでの生活の一部となり、すべてのメンバーの安全と成長に貢献するよう、保護指針と手続きを開発し実施していきます。

数週間から数か月のうちに、障がいのあるなしに関わらずすべてのメンバーが思いや考え、疑問点を表明する機会を持てるよう、各リーダーには対話と支援の場を設けるよう要請します。希望する人は、私たちの調査の要約をウェブサイトから入手できます。この主要な発見事項をまとめた要約版は、国際リーダーシップ・チームと国際理事会の間で共有された歴史的な調査とより詳細な機密の調査報告から作成されています。

今回の調査の結果は、私たち個人にも組織にも深い影響を与えるものですが、私たちにはこれらの出来事によって傷ついた人への責務があり、私たち自身への責務もあります。もし、私たちの過去を澄明な目で見ることができなければ、ラルシュに未来はありません。今日私たちが知ったことは暴風となり、大混乱を引き起こすでしょう。しかし、確かさを失ったとしても、私たちは成熟というものを得て、さらなる正義、洞察、そして自由を得た未来のラルシュに向かっての一步を踏み出すことを願っています。

私たちに証言を提供した女性たちに賛辞を贈りたいと思います。ラルシュのリーダーとして、私たちの仕事は痛みを伴う事実から自分たちを守るのではなく、私たちを導く原理原則に忠実であり、「それぞれの人独自の価値」を確認することです。この女性たち、そしてまだ沈黙している女性たちの勇気と苦難を私たちははっきりと認識しています。私たちはまた、数年前にトマ・フィリップ神父に関して沈黙を破った女性たちに対して感謝します。そのおかげで他の人たちが、はなはだしい恥辱と痛みについて声を上げることができました。これらの出来事はラルシュの文脈の中で起きたことであり、そのうちのいくつかは私たちの創始者が起こしたことであり、被害に遭われたすべての皆さんへ、私たちは許しを請います。

もし、証言した方の言葉が私たちの歴史の問題を抱えた部分に光を当てるのなら、彼女らの努力はラルシュに旅路を続けるチャンスを与え、私たちが歴史をより意識するようになり、そして、究極的には、現在の私たちの困難により良く立ち向かえるようになるチャンスを与えることになるでしょう。それもまた彼女らの意図だと、私たちは理解し、感謝しています。

世界中のラルシュのすべてのメンバーの皆さん、私たちには友情の強い絆、お互いを思いやる心、そして一体となってこの苦難を乗り越えられるという自信があることを何度も繰り返して申し上げたい。神への信頼と友人からの支援とともに、私たちは、それぞれのコミュニティで、地域で、国で、「より人間らしい社会に向けて、(障害のあるなしにかかわらず)ともに働く」努力を続けましょう。たった今皆さんと共有したこの調査結果が、この働きの助けになることを願っています。

ステファン・ポスナー
国際リーダー
(署名)

ステイシー ケイトカーニー
副国際リーダー
(署名)

ⁱ アイデンティティと使命宣言 2007年3月